

諏訪市立四賀小学校

神戸山遊び場作り

《課題解決型学習》

2019 年度
中信地区環境教育ネットワーク
(ee ネット) 登録団体
学習実践例

授業名：神戸山遊び場作り

①

学校名：諏訪市立四賀小学校
学年・人数：5年2組 28人
日時：9月4日 13:20～14:30
講師：寿さと山くらぶ
主な活動場所：学校裏山（神戸山）

こどもと先生のねがい

- ・子ども達の話聞きながら、林でどんなことができるかアドバイスをいただきたい。
- ・自然を使った遊具の提示（軽く）
- ・遊具作りにつながるようなロープワーク

こんな学習を。。。

鳥居前に集合、始めの会→子ども達と一緒に山に登る。子ども達からは、ふだんどんなふうに山で遊んでいるかを講師に話し、講師からは、安全のことや、こんなこともできるかもねという話を投げかけてもらう。

気を付けること

話をしながら、安全について注意を向ける。作業時はヘルメットをかぶる。

当日の様子

- 【実施概要】
- ・自然の中で遊べる遊具の紹介。
 - ・ロープワークを知る。
 - ・紹介された遊具を体験する。

【実施状況】



② 実際にロープをはって見たらどうなるかな、ターザンロープをつけて見たらどうかなと仮に作って頂いた遊具で遊んでみた。

③ 固定するしぼり方やずれない結び方などロープにはいろんなしぼり方があることを知り、必要感をもてた。

① 学校裏の神戸山にみんなで遊べるようなブランコやターザンロープを作りたいなという願いから、鈴木さんに来て頂き、自分たちにできそうな、遊んでみたい遊具を紹介して頂いた。





④ ここは走れるところをのこしたい、ここにはブランコをつけたい、急ですべりやすいからロープをはりたいなど遊んでいく中から見通しや具体的な目標が持てるようになった。



⑤ 次回までに自分たちが作りたいものを試しておこう、いろんな結び方を覚えていこうと見通しを持って終了した。

☞ 子ども達の感想 //

- ・作ってほしいと思っていたターザンロープを作ってくれてうれしかった。どんどん遊びに来る人が増えるようにいろんな遊具を作りたい。
- ・鈴木さんがたくさんアイデアを紹介してくれたので、やりたいことがみつかった。次回はぼくらで考えたことを提案できるようにしたい。森で遊び場を作って遊ぶことができて楽しかったので、遊び場を作っていきたい。
- ・遊びながらあったらいいなと思うものを考えることができました。私はロープを新しくして、二人乗りのブランコを作りたいと思いました。今日は頑丈なしぼり方を教えてもらえました。直さなきゃいけないところがたくさんあったのもっと工夫したいです。
- ・おりにくいところにロープをつけてくれたので、あまりすべらなくなりました。ターザンロープもつくってくれておもしろかったです。キノコも食べられるか教えてくれました。キノコ狩りもできるかなと思いました。ハンモックは緑をみながら寝られて気持ちがよかったです。もっと遊べる山にしていきたいです。

☞ 先生方の振り返り //

- ・神戸山の林をさらに身近なものにしながら、もっとここを遊べるようにしたい、この木は枯れていて危ないから切った方がいい、と自分事にして関わっていく姿が見られた。
- ・紹介して頂いた遊具に目を光らせてつけてみたい、遊んでみたいと積極的に関わる姿が見られ学習への意欲づけができた。
- ・ロープワークや服装を振り返る中で、みんなが安全に遊び、安全に設置することへの意識ももてた。
- ・いっしょに関われる時間が短いため短時間に多くのことを教えて頂いた。子どもたちから必要感や気づきをもって専門家に相談するような流れを大事にしつつ、専門家の大事にしている安全管理や技術の価値には気付かせていきたい。

☞ 講師の振り返り //

森の中での子どもたちはとても元気で楽しそう。いつもどのような遊びをしているのかよくわかった。多くの子が、神戸山で遊ぶのが好きであることがわかった。

授業名：神戸山遊び場作り

②

遊具を設置してみる

学校名：諏訪市立四賀小学校
学年・人数：5年2組 28人
日時：9月26日 10:40～12:25
講師：寿さと山くらぶ
主な活動場所：学校裏山（神戸山）

こどもと先生のねがい

前回は鈴木さんからヒントをもらったあと子ども達なりに考えた遊具を林に持ちこんで、設置してみる。上手くいかないことも多いので鈴木さんに助言をもらって、さらにいろいろ子ども達なりの工夫を促してほしい。

こんな学習を。。。

山に登って、子ども達が考えた遊具を設置してみる。一緒に遊んでみて、具合の悪いところをどう直せばいいか講師のアドバイスをもらいながら工夫する。何か一つ完成するといい。

気を付けること

作業時はヘルメットをかぶる。

当日の様子

- 【実施概要】
- ・実施内容（作りたい遊具）の提案
 - ・実際に提案にしたがって遊具の作成してみる。
 - ・安全性やロープワークの活用についてアドバイスをもらう。

【実施状況】



・前回の学習から自分たちの作りたい遊具について講師に提案し、簡単なアドバイスや考慮すべき点について指摘をいただいた。

・ハンモックの目の大きさや縛り方について、コツを教えてもらう。



・現地にて（ターザングループ班）
調べながらもやり結びをやるが、ロープの長さや木の太さ、本の印刷の向き等でなかなか思ったように縛れない。また縛ったロープに乗るとどんどん緩んでしまうことに気付く。「とてもぶら下がってすべるなんて…」



・綱の貼り方についてアドバイスをもらう。やってみたからこそ、ロープワークを練習すること、ロープの長さの妥当性、滑車や塩ビ管などロープを滑らせるものは何がいいか、ロープもクレモナなのか、ビニールロープなのか、など課題点がみえてくる。

・現地にて（ブランコグループ）

古い遊具を取り外し、講師とともに新しいブランコを設置した。体験しながら「座面が低いかな」「上はどう縛ったのだろう」と確認した。自分たちでも新たに作ってみたいという思いを強くしていた。



・やってみることで頭の中に描いていたものと現実のずれが明確になり、必要なこと、やっておかないといけないこと、大きさの感覚のずれなどがはっきりしていた。やれるつもりで来たけれどこれ以上活動できない、というグループもあり、遊具一つとっても思ったようにはできないんだなということを感じることができた。

・次回（翌週）もハンモックや基本の縛り方について最初に確認することからスタートして、続きをやりながら、ブランコ班やターザンロープ班、ロープ設置班といったできるところから完成を目指すことにして終わりにした。

☞ 子ども達の感想

- ・いざ行ってみると場所のことやベンチの長さのことくらいしか思いつけませんでした。鈴木さんに見てもらってもうまくできませんでした。まとめてみると材料は？木材の大きさ厚さは？費用は？と困ったことがたくさん出てきました。次回までに見通しを持ってやりたいです。
- ・遊び場を作るとき、ブランコを付けるところが高すぎて、かけるのに時間がかかったし、かかって引張るのが大変でした。それで結局できませんでした。そこでできるだけ低い場所を探しました。いい場所を見つけてくれたので、次回つけてみたいです。作るのが取っても楽しみです。
- ・美しい自然がある神戸山にぜひ遊びに来てほしいと思い、それぞれ作りたい遊具を作ることになりました。私は景色を見てほしいと思ったので展望台を作ります。それはとても大変なことで参加している人も3人です。今日もうまくできませんでした。順番が回ってこなかったし、場所を変更したので大変になりました。

☞ 先生方の振り返り

- ・国語で学習した提案書をもとに自分の作りたいものについて思いを語れる姿が見られた。
- ・頭の中にあるイメージと実際にやってみた時のうまくいかなさ加減を感じ、準備見通しの必要性や場面に応じたロープワークの習得に必要性を感じる姿が見られた。
- ・自分たちのできる範囲（経済的）で安全も管理しながら自分の作りたいものを設置することへの意識をもてた。できることから挑戦し、まず取り組みレベルアップしていこうという段階を踏めるように声がけしていきたい。
- ・子どもたちから必要感や気づきをもって専門家に相談するような流れを大事にしつつ、専門家の大事にしている安全管理や技術の価値に気付かせていきたい。

授業名：神戸山遊び場作り

③

設置再挑戦

学校名：諏訪市立四賀小学校
学年・人数：5年2組 28人
日時：10月2日 10:40～12:25
講師：寿さと山くらぶ
主な活動場所：学校裏山（神戸山）

こどもと先生のねがい

みんなで作った遊具を設置しようとしたがうまくいかなかった。思い通り、予想通りに行かなかったところをどう工夫するか、話し合って工夫して再挑戦。

こんな学習を。。。

前回設置しようとしてロープワークでつまづいたので、教室にてロープワークを再度確認。（もやい結び、エイトノット、2重輪結び）再度神戸山に登って設置の再挑戦。

気を付けること

作業時はヘルメットをかぶる。

当日の様子

- 【実施概要】
- ・基本的なロープワークのやり方について指導いただく。
 - ・実際に提案にしたがって遊具の作成を試みる。

【実施状況】



基本の結び方3つを全体で確認した。

（8の字結び・もやい結び・二重輪結び）

ハンモックのグループもいるので合わせて編み方を確認し、実際にやってみた。

もやい結びは登攀にも使うという丈夫なしぼり方に「これならきっと使える」と納得。繰り返し練習して山へ向かった。

ターザンロープグループ

「少しだけどすべった。でもやっぱりゆるんじゃう。真ん中まで来るとお尻がついちゃう。高さを工夫しないと。」





ロープはりグループ

「締め方も分かったから自分たちで一つつけることができた。みんなが使ってくれたし、ありがとうと言ってくれてうれしかった。」



ブランコグループ。

「一年生でも使えて、あまり低すぎない高さに。自分たちでも縛れるようになったから微調整もできる。2か所完成したから早く遊びたい。」

市民新聞にも授業の様子が紹介されました。



子ども達の感想

- ・鈴木さんは「救助の時には役に立つよ」とみんなに言いました。わたしはそれをきいて「すご〜!」と思いました。結び方が分かったおかげでターザンロープっぽくなりました。
- ・私は8の字結びはできるけど、時々忘れてしまうので確認できてよかったです。もやい結びはロープ張りなどいろんなところで使うので覚えておきたいです。二重輪結びはブランコに活用できました。
- ・もやい結びや巻き結びではったロープを、実際に使ってもらおうと「らく〜」「ありがとう」と言ってくれてとてもやりがいを感じました。
- ・平均台グループは何を作るか振出しに戻りました。平均台もいいけどちょっと大変そうです。ロープを張ってその上を歩けるのを本で見てそれでも面白いかなと悩んでいます。

先生方の振り返り

- ・まだできてはいないけど完成に近づいたという思いがさらにロープワークや工夫をしたり、見直したりしていこうというやる気に変容していて楽しそうに活動している。
- ・ロープワークを全体で確認できたことで作業へのやる気が高まった。たびたび確認しながら何度もやることが身についていくことにつながるし自信になる。
- ・ハンモックのグループでは「みんなだと時間がかかるので自分だけでもやりたい」とロープを持ち帰り、「4時間でできた」と作成して持ってきた。この主体的な姿勢には鈴木さんの温かなアドバイスや実際の現物に触れられるという経験があってこそで、次回にはと意気込んで製作を進めている。

授業名：神戸山遊び場作り

④

遊具を設置・完成を目指す

学校名：諏訪市立四賀小学校
学年・人数：5年2組 28人
日時：10月15日10:40～12:25
講師：寿さと山くらぶ
主な活動場所：学校裏山（神戸山）

こどもと先生のねがい

鈴木さんからもらったアドバイスを生かしながら子ども達なりに考えた遊具を林に設置してみる。上手くいかないことも多いので鈴木さんに助言をもらって、さらにいろいろ子ども達なりの工夫を促してほしい。

こんな学習を。。。

山に登って、子ども達が考えた遊具を設置してみる。一緒に遊んでみて、具合の悪いところをどう直せばいいか講師のアドバイスをもらいながら工夫する。ターザンロープチームとハンモックチームを中心に。

気を付けること

作業時はヘルメットをかぶる。

当日の様子

【実施概要】 ・提案にしたがって遊具の作成を行いながらアドバイスをいただく。

【実施状況】



ブランコグループ

「完成したブランコに乗ってみると楽しい。いつまでも遊んでいられそう。2か所もできたから今度はほかのグループを手伝ってみたいな。」

「持ち手のところも握りやすいように、これで緩まないか確認してもらおう。」



ターザンロープグループ

「ロープは張れたから滑車を自分たちで作ってみた。先生に紹介してもらったけどあんまりすべらないな。」

ロープはりグループ

「前回一か所だったけれど今回は増設してみた。ロープがあることで普段行かないルートもコースのようになって人が通るようになった。」

ハンモックグループ

「自分で作ってきたハンモックは教室では大きく見えるが細長く、体を預けられない。もっと広くしないと乗っては遊べない。みんなで作ったものと自分の作ったものをひもでつないで広くしておきたい。」



子ども達の感想

- ・音楽会時間割の中でなかなか時間が取れず準備が思うようにできないで当日を迎えてしまった部分もあり、もっとやっておきたかったと振り返る子が多く見られた。
- ・ブランコグループが完成したことで遊びたい気持ちも遊んでほしい思いも高まっている。
- ・ロープ張りグループはブランコグループに声をかけさらに人を増やし、安全のためのロープ張りもしたいと崖側の部分にロープをはろうと計画している。
- ・滑車をやっぱり試したいとターザンロープグループは次回実験を計画している。
- ・平均台グループは木の間に間伐材を縛り付けて、その上にロープを張り伝い歩きできるように考えている。

先生方の振り返り

- ・ハンモックのグループ・展望台のグループは休み時間にハンモックを編み続けている。何とか自分たちの思いを形にしたいとそれぞれのグループが活動している様子が分かる。一方で核になって動く子の周りで自分の活動を見つけられずにふらふらしてしまう子も見られる。次回までに自分が作りたいこと、できることを整理しながら残りのグループが何とか何かを実現できるように準備をしておきたい。
- ・音楽会が25日に終わるのでその後に第5回を設け、準備をして活動できるように時間を取っておく。
- ・特別支援学級の子たちが遊びに行き、ブランコがすごく楽しかった。ブランコや張ってあるロープで遊べるようになるのが楽しみ。と声を掛けられ意欲を高めている。

講師の振り返り

思っていたようには進まないものだ。4回シリーズで終わらせる予定だったが、予定通りにいかない。どう対処するか検討が必要。

授業名：神戸山遊び場作り

⑤

遊具を設置・遊んでみる

学校名：諏訪市立四賀小学校
学年・人数：5年2組 28人
日時：11月20日 13:15～15:00
講師：寿さと山くらぶ
主な活動場所：学校裏山（神戸山）

こどもと先生のねがい

鈴木さんからもらったアドバイスを生かしながら子ども達なりに考えた遊具を林に設置してみる。鈴木さんに助言をいただいて、ハンモックを中心に完成させる。子ども達なりの工夫を促し、ロープワークを教えて支えてほしい。

こんな学習を。。。

山に登って、子ども達が考えた遊具を設置してみる。一緒に遊んでみて、具合の悪いところをどう直せばいいか講師のアドバイスをもらいながら工夫する。ターザンロープチームとハンモックチームを中心に。

気を付けること

作業時はヘルメットをかぶる。

当日の様子

【実施概要】 ・遊具の設置を行いながらアドバイスをいただく。

【実施状況】

ハンモックグループ
「木にどう結びつけたらいいのかな。不安定かな。」

「やっと自分たちで編んだハンモックがついた。包まれてるみたいで楽しい。」

「空や紅葉がきれい。右には景色が見えるね。」



ターザンロープグループ

「滑車を試したけれどロープが太かった。細いロープを張りなおしたら滑った。鈴木さんに番線の締め方でロープを張ってもらったらすべりやすくなった。」



平均台グループ

「誰かが立っても安全なようにしっかり固定しよう。木が傷つかないように。もって支えられるようにハンモックの綱を木にはろう。」



安全面への気づき 自然環境や景観への配慮

ロープ張りグループほか

「ガムテープやいろんなところに張り巡らしたロープ・ひもは紅葉や景観を邪魔していないかな。」

「ロープやひもの耐久性は大丈夫かな。」

☺ 子ども達の感想

- ・ハンモックグループは苦心してきたハンモックを張ることができ達成感を味わっていた。ハンモックで見上げた景色に紅葉や空のコントラストを味わっていた。ロープの結び方や固定の仕方がまだ不安定で自分で調節でききれないので身につけたい。
- ・展望台グループは滑車にこだわりを持ちながらも、ハンモックを完成させている。それを高所に付けていきたいと願っているが間に合わなかった。こだわりは持ちながらも完成への手順を見通しながらやり遂げたという区切りをみつけてほしい。
- ・ターザンロープは一応の完成をみせたことで子どもの気持ちは高まっている。完成を区切りにはするも、もう少し調整したいと考えている。ロープをぴんと張る方法を考えてきたり、滑車を持ち込んでくれたりしたことを感謝している。
- ・平均台グループは木の間に間伐材を縛り付けて立って歩けるようにできた。もっと広げたいし、その上にロープを張り伝い歩きできるようにハンモックを付けようと思っている。

☺ 先生方の振り返り

- ・全5回の鈴木さんによる講習が一区切りになった。全てが完成したわけではないが森に生きる知恵や工夫、専門家が大事にしていることにふれ、その価値を体感することができた。完成したグループも未完成のグループもやりたいことを見つけながら山を楽しんでいる。地域の里山で遊ぶ経験を手伝っていただけてありがたかった。
- ・12月になると霜が降り山に入りにくくなるので、11月中に何回か機会を作り、未完成でも子どもたちなりの区切りがつけられるようにしたい。
- ・また遊具ということで安全性や景観も改めて考え、最後に安全安心に立ち返って今後を見通したい。

☺ 講師の振り返り

1人ではやりきれない部分があった申し訳ない。展望台グループが途中になってしまったので、何とか子どもの気持ちに区切りがつくようにもう一度来たいと思う。

授業名：神戸山遊び場改造計画

⑥(おまけの1回)

遊具の完成・遊具で遊ぶ

学校名：諏訪市立四賀小学校
学年・人数：5年2組 28人
日時：11月26日10:40～12:30
講師：寿さと山くらぶ
主な活動場所：学校裏山（神戸山）

おまけの学習

5回の学習で終了の予定だったが、やりきれなかった班もあった。鈴木さんの好意で最後にもう一回、仕上げの学習をすることになった。

当日の様子

【実施概要】 遊具の設置を行いながらアドバイスをいただく。

【実施状況】



平均台グループ

「注意書きを作ったよ。2人以上は危ないかな。網を張ったら手をかけやすくなった。」

時間があったからハンモックやつりブランコも完成させたよ。



ターザンロープグループ

「滑車を変えたらとってもよく滑る。のり場所は提案してくれた間伐材のはしごをロープで作ったよ。左右2か所のターザンロープができたよ。交互にやってもらわないとぶつっちゃうね。」

6回目にととう全部の遊具が完成した。まだ100%ではないし、今後も安全面や注意書きなどの管理をしていく責任について鈴木さんにお話をいただいた。子どもたちなりの達成感と共にようやく遊べる段階になった「森の遊び場」に子どもたちのワクワク感が高まっている。

翌日、姉妹ペアの3年生とペア活動で遊び、モニタリングを行った。



近くの神戸山がこんなたくさん
の遊び場になってうれしい。
もっと遊びに行きたい。



安全面への気づき 自然環境や景観への配慮
ロープ張りグループほか
「ガムテープやいろんなところに張り巡らしたロープ・
ひもは紅葉や景観を邪魔していないかな。」
「ロープやひもの耐久性は大丈夫かな。」

子ども達の感想

- ・ハンモックグループはロープの結び方や固定の仕方を工夫し、安定感のあるハンモックに仕上がった。乗ると狭くなってしまう感じがなくなり心地よくできた。
- ・展望台グループは、手作りはしごで登れるハンモックを完成させた。こだわってきた滑車の利用はまた研究をして、機会があれば実施してみたい。
- ・遊具の完成を心から喜び楽しめた。準備の大切さや、今後も安全管理をしていく管理責任について学んでいる様子が見られた。

先生方の振り返り

- ・プラス1の時間だったが、講師の鈴木先生のアイデアによりすべての遊具が完成にたどり着いた。達成感が味わえたこと、遊具で遊んでもらえたこと、ものづくりする楽しさと責任や義務について考えることができたいい学習になった。
- ・他学年からも遊びに行きたいという声があり、もう少し早い完成だとよかったが、暑い時期から寒いこの時期まで森林をじっくり味わうことができた。

講師の振り返り

なんとか子ども達が納得できるところにたどり着くことができてほっとした。子ども達がとても元気で、楽しく活動ができた。

授業名：神戸山遊び場作り 全体を振り返って

先生方の振り返り

広げ過ぎた感があるので、もう少し絞るか、又は月に1回ぐらいの割合で春先から時間をかけて取り組めば良かったとの思いはある。年間を通して神戸山をテーマにすることで、木や山に意識が生まれたのは良かったと思う。

講師の振り返り

ふだん遊んでる山を、もっと楽しく遊ぶにはどうしたいかということ子ども達なりに一生けんめい考え、それを実現させるお手伝いをした。こちらが「こうだよ」という前に「こういうことをやりたい」というのを子ども達の方で持っていたので、それを実現させるために、基本的なロープの結び方を教えたり、あらたな見方から提案をしたりということでお手伝いをした。

子ども達の想像力と実行力が見えた活動で、考えることもすごいが、それを達成させるための努力もすごい。何より、元気が良くて、山を駆け回っていた。なかなか手が回らないところもあったが、教えれば覚えも早くて、それもすごいなと思った。

最後に子ども達に考えてほしいところは、どんなところに危ないところがあるか、遊びながら考えてほしい、どんなところに危険があるかということを考えていくことができて（危機管理ができて）、完成だと思う。

コーディネータ感想

《9月4日①》

森の中でどのような遊びをしたいか、遊具がほしいかとの問いかけに対して、何人もの生徒が積極的に次々と発言していたのが良かった。

友だち同士で遊び方や、体の使い方をアドバイスしたり、講師の鈴木さんから学ぼうという姿勢が感じられた。(平)

斜面での転倒や、ロープからの落下により怪我をする可能性があり、その場合の対応をどうするか明確にし、教師・講師・記録者が共有しておく必要があると感じた。(平)

《10月15日④》

学習プログラムとしてやや欲張りすぎてしまったのかもしれない。

いくつかのグループに分かれての取り組みとなるので、全てのグループに対して先生である鈴木さんの指導が行き渡らず、特定のグループのみに対応せざるを得ない状況ができてしまっていた。(平)

《全体を通して》

子ども達の発想や、試行錯誤の展開に寄り添いながら、目的達成に向けて支援をするということの難しさと、面白さが見えた活動でした。

子ども達の発想について行くためには講師側の幅広い技能が求められて鈴木さんの懐の深さを感じました。一方で、子どもたちは自分達がやりたいことなので、一生懸命考えるし、動くし、覚えも早い。工夫したり、やりなおしたり、発想を変えたりという過程は人生のあらゆる場面について回ることで、試行錯誤の結果何かを達成できたという体験は子ども達にとって今後生きる学習だと感じました。

支援団体としては、鈴木さんがせめてもう一人いれば状況は今少し楽だったかなというところで、講師探しの必要性を感じました。(中)